

産興 昭 和 興 産  
ネ シ ア  
イ ド

# 輸出事業を本格化

## 天然系粘着付与材など 樹脂トレードも

【ジャカルタ＝清川聡】昭和興産はインドネシアにおける事業領域を拡大する。今年5月から新たに輸出事業に参入。インドネシア国内を調達ソースとする天然系素材の輸出販売を開始したほか、

来年には食品添加物原料の輸出も視野に入れる。さらに来年には樹脂のトレード事業にも参入する計画で、2018年までの目標に掲げる売上高10億円の達成を表現する。現地法人である昭和興

産インドネシアは、昨年の設立以降、主力とする工業用向けの界面活性剤のほか、ウレタン原料、塗料原料、衛生製品関連商材、ゴム添加剤、樹脂難燃剤などの商材の輸入販売を手掛けている。

中長期的にはインドネシア経済は持続的な成長が見込める一方、短期的にはルビアンへの柔軟な対応が必須。インドネシアでは輸入事業が約80%を占めていたが、今年から輸出事業を本格的に開

始。5月にはインキや接着剤向け天然系粘着付与材の輸出を開始した。さらに来年は同国で栽培した食品添加物原料を日本やアジア市場に供給する計画。将来的には輸出入の比率を均等にする。また、樹脂のトレード

事業も新たな成長分野に位置付けている。インドネシアでは多数の樹脂が輸入ポジションにあり、今後も国内供給が限定的な状況が続く見通し。昭和興産ではこうした状況を踏まえ、ポリオレフィンや塩ビ、その他樹脂と

いった製品のトレードインク事業を視野に入れる。主に電線やパッキング材といった建材向けや、自動車用エンブラの販売も視野に入れる。来年の事業開始を目標として、市場調査を進めていく。一昨年の現地法人立ち上げ以降、商材の取り扱いき量が拡大していることから、事務所を置くフカシ県デルタマス近郊やタングラン地区など需要家が集まる地域に第2の物流倉庫設立も検討する。